

学校図書館を考える全国連絡会

報告者

水越規容子・梅本恵

会の活動紹介と配布資料

- 1997年に発足
- 全国に多数ある「〇〇の学校図書館を考える会」などのネットワークとして活動
- 年1回集会を開いて、勉強会・実践報告会・意見交流会を開催
- 配布は2014年・2015年の集会記録誌、「ぱっちわーく」チラシ

なぜ、学校図書館なのか？

- 鍵のかかった学校図書館、本の倉庫でしかない学校図書館の問題に気づき
- 他地域（岡山市など）の実践を見聞きし、わが町にも学校図書館に「ひと」を入れたいと考え始め、運動
- だが、単に人がはいればいいのではない、その後の条件整備、研修などの問題の重要性に目覚める

わが子の学校

わが町

国全体

そして気づいた

学校図書館は、教育の根幹に関わる問題であり

学校図書館を変えることで、学校教育そのものも質的に変えられる

私たちが求めるものは
学校図書館の機能によって
保障される

- 子どもたちの主体的な学び
- 子どもたちの豊かで自由な読書

それがどの町でも実現すること

さてここで・・・

全国状況を見ると

確かに学校司書配置は少しずつ増加しているように見える

これは

- 学校司書の実践の積み重ねと、市民の強い要望・運動
- 学校司書の必要性の認識
- 自治体施策の努力
- 国の教育政策

文科省の「現状に関する調査」
最新では、小中の配置は50%
を超えている

しかし・・・

配置率からでは**実態**は見えない

配布資料記録誌の「東京都学校司書
配置表」を参照

配置あり(45/62)とはいえ

- 勤務日数・時間・複数校兼務・待遇などのばらつきが大きく
- 資格についてもまちまちで
- 一概に配置とされても実態は様々

さらに・・・

民間委託などの増加

都内公立小中学校は、15区市で民間委託



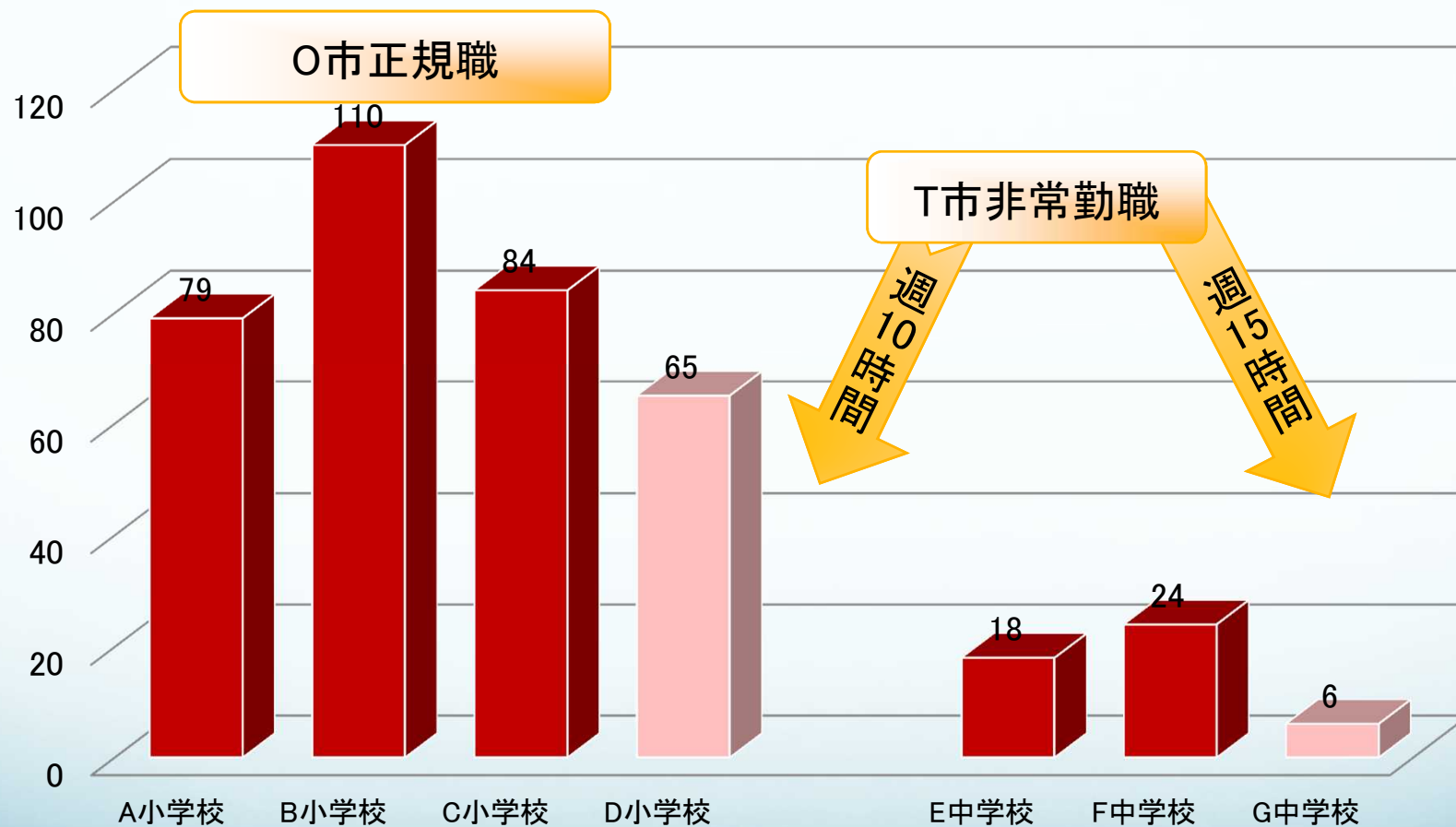
- そもそも、校長の指揮監督下でない
- 教職員の一員としての位置付けがない

資格・養成のあり方、また研修
内容が重要であることに
異論はない

しかし・・・

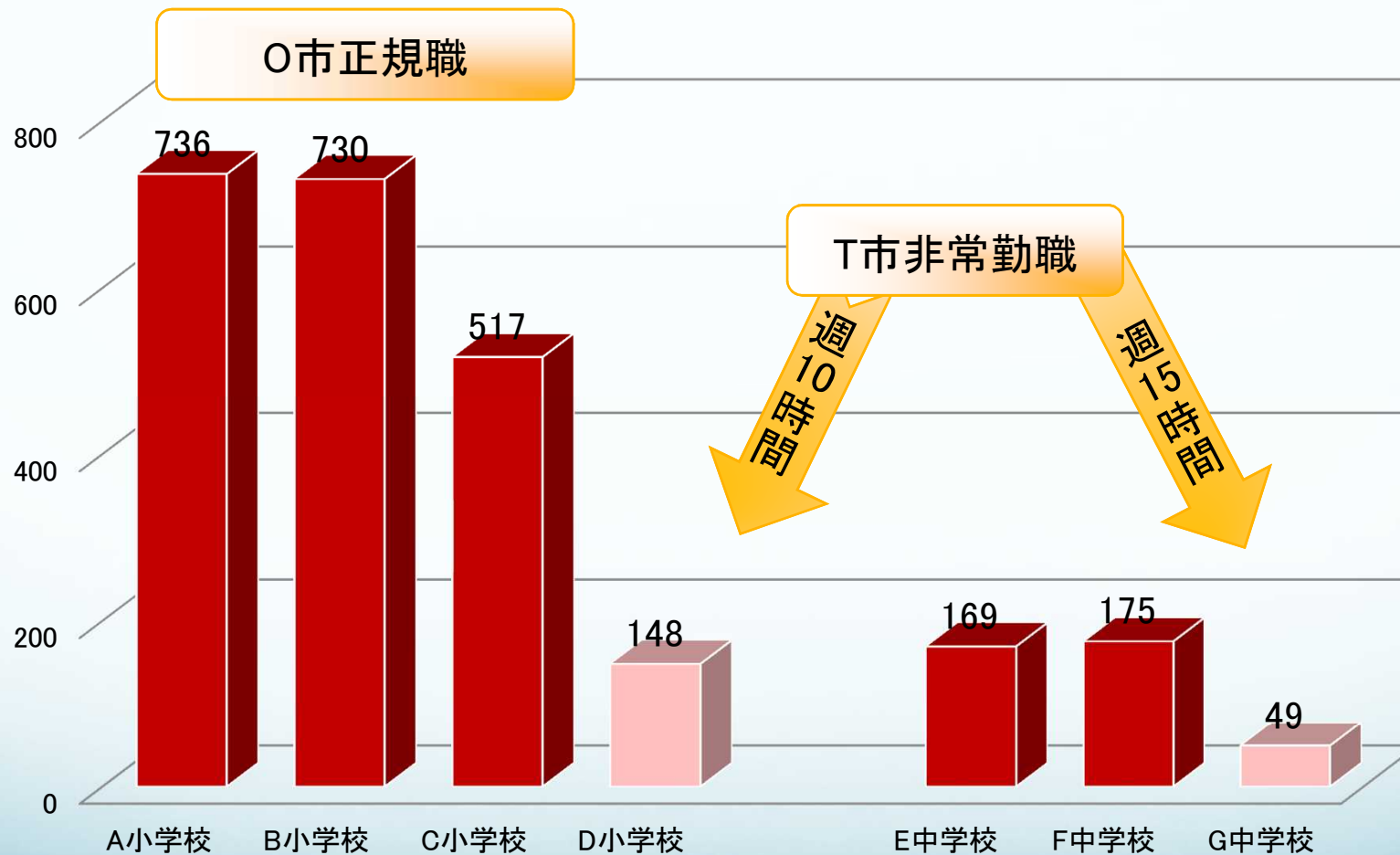
それだけでは解決しない

年間一人平均貸出冊数



富山県図書館を考える会よりデータの提供

図書館が使われた授業時間数(年間)



富山県図書館を考える会よりデータの提供

鳥取県立高校の事例

- 正規の学校司書が、**教職員の一員**として司書教諭・教員と連携のもと、図書館教育を実施
- 授業の活用時間は年間**220時間**超、レファレンス件数は**1,584件**

データは鳥取県立鳥取西高校H25年度

教育活動に参画できる体制

- 県立高校すべてに正規司書
- 職員会議等への参加、「起案」
- 研修の機会、公務での出張
- 図書館が常に開館→いつでも教職員・生徒が来館できる
- 「県職員」として外部との連携

これらから導き出せる
ことは

結論 1

日常的な学校図書館
館活動を保障

結論 2

自治体の直接雇用

結論 3

自治体施策を守り、前進させる

結論 4

専任・専門・正規を
追求し続ける

これらをどのように
可能にしていられる
か、この協力者会議
の結果に期待したい

ご清聴ありがとうございました。